

トンネル知ったかぶり

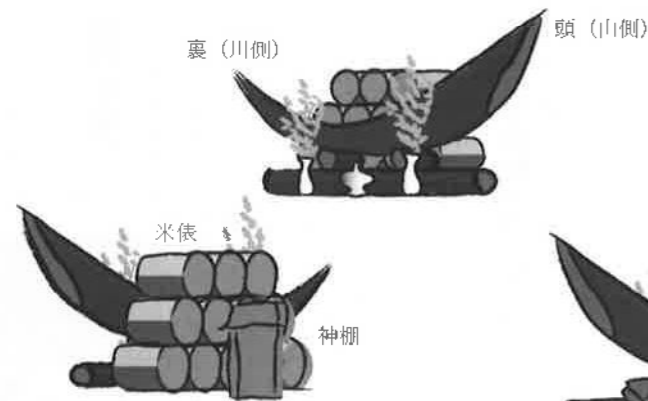
○材質はソリが美しく、頭【かしら】と裏（根元側と先端側）の幹径の差の大きい男松（黒松の通称）を使用し、隧道の断面によって見栄えのよい長さに切り揃え、両端を斜めに切り落とす。その加工途中に御神木を

その製作・据付の方法にも、一片のこだわりがある。

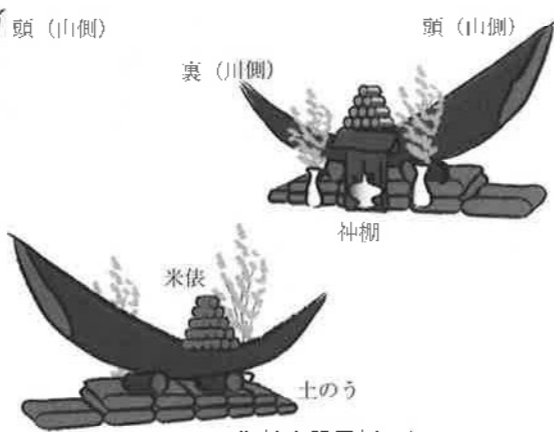


御神木のルーツと言われる伊勢神宮の屋根飾り

り（象徴）を模して白らの象徴として、隧道工事の安全を願う掘削作業を行ってきた。その慣習が日本全国に広まったと言えよう。



御神木設置例 2



御神木設置例 1

跨いだり、座ったり、傷つけたりすることが決してあってはならない。（私自身、何も知らず御神木を加工中に跨いでしまい親方の逆鱗に触れた経験がある。）

今日においては時代の流れなのかもしれないが、この御神木の扱いは簡素化しており、米俵や神棚等を置かない現場も増えてきている。中には、御神木そのものを設置しないという現場まであるという話を聞いている。

最近では銚【かすがい】にて台木に固定する方法を多く見かけるが、神様を傷つけてはならないという考えから、台木に鯖【さば】を切って（鯖＝Vカット）御神木を載せ固定している。

○御神木の載せる台木においても、檜木の上に載せる方法、土のう（俵）を七・五と積み上げてその上に載せる方法、五・三の石を置きその上に載せる方法と、各地方、各親方に伝わる設置方法は多様である。

○御神木を設置する際、頭を山側に向け、裏を川側に向け設置する。（その際、頭側を高く据え付ける。）しかし、据付の際の頭の向きにおいても多様な言い伝えがあり、御神木の右（頭）には天照大御神が宿り、左（裏）には鵜草葺不合命【ウガヤフキアエズノミコト】が宿るとして、山側、川側を関係無しに必ず右側に頭を向けて据付を行う親方もいる。

い、独自の文化を発展させてきた。そんな日本の慣習だからこそ、御神木の祀り方は各地方・各親方それぞれ多様であるのだと思う。

文化の伝承・技の伝承は後世に技術者を残すための先人に課せられた最も大きな責任であるように思う。昔話も語り継がれるうちに言霊となり、我々に良い結果をもたらしてくれるかもしれない。これも日本人的な考えではないか・・・（笑）

（会員番号310）



「坑口は坑夫の顔」と呼ばれ、その現場のレベルが坑口を見ただけで推測がつく。だからこそ、美しく支保工を建て込み、吹付の面を均一に吹上げ、ロックボルトの高さを揃え、土のうの継ぎ目を富士を描くように一定方向に向けて、積み上げていく。そして最後に、御神木を据え、隧道

我々隧道専門業者はこの『御神木』が据え付けられている『坑口』の施工にこだわりを示し、そして同業者に見られて恥ずかしくないようプライドを持って施工する。



坑口付全景

▼御神木
『御神木』とは『化粧木』などと呼ばれ、坑口の上から工事の安全を見守ってくれる大切に祀られた木のことである。その据付の方法にも各土地、各親方のこだわりがある。

▼坑夫の顔

隧道施工現場の朝は早い。通常の明かり工事よりも、時間早い朝の七時から仕事が始まる。隧道労働者は、地方からの出稼ぎ労働者が多数を占めており、

「少しでも稼いで故郷に帰りたい」という気持ちの現れであると思う。そんな早朝の清々しい朝霧の中、静かに、そして力強く現場全体を隧道の上から見下ろす、『御神木』が存在する。

工事の安全を願う祈願祭を迎える。坑口が美しいからこそ、神妙且つ、厳かに工事の安全が願えるのである。

そもそも御神木は坑口に、神を祀る神聖なもの（鳥居・神社）に見立てた木を据え付け、隧道を施工する山の山神が鎮座する場所として敬っていた。

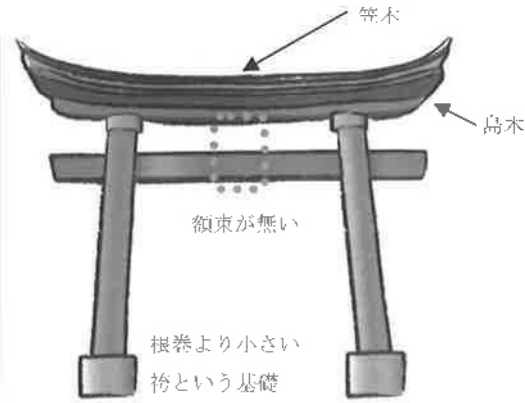
御神木のルーツとして挙げられるのが、九州坑夫を中心にして八幡宮の総本宮である大分県宇佐市の宇佐神宮の鳥居を模して御神木を祀ったといわれる説と、三重県伊勢市の伊勢神宮の唯一神明造の本殿屋根飾りを模して御神木を祀ったといわれる説とがある。

両方のルーツともに納得できる部分がないかと思はれる。宇佐神宮の鳥居説に関しては、隧道工事の明治の時代から牽引してきた、

『豊後土工（ぶんごどこう）』の存在が大きいのではないだろうか。豊後土工とは大分県南部を中心に集まった隧道坑夫の出稼集団であり、日本の隧道工事においては、その卓越した技術と勇敢さで、全国に名を轟かせていた。

この豊後土工の世話役衆が自分たちの地元の神を祀る、宇佐神宮の鳥居を模した御神木に隧道工事の安全を願う、掘削作業を行ってきた。その慣習が豊後土工の隆盛とともに日本全国に広まったと言えよう。

※宇佐鳥居とは一般的に鳥居と言えはこの形状を差す。鳥木型鳥居と呼ばれ等木の下に鳥木が入るもの。鳥木型の中でも、更に一般的な明神鳥居の額束を無くし、柱の基礎が根巻ではなく、袴となっている。



御神木のルーツと言われる宇佐神宮の鳥居※

伊勢神宮唯一神明造本殿の屋根飾り説に関しては、伊勢神宮の格式の高さからであろうと思われる。伊勢神宮は太陽を神格化した天照大御神を祀る神社であり、神社本庁の本宗とされている。（神社の最高位）日本の氏神の総氏神（最高神）であり、隧道施工地域の山神を重んじる坑夫にとっては祀って然るべき神様であると思う。その神の祀られている神社の屋根飾り